

第2回高松中心市街地プロムナード化検討会議 議事概要

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第2回高松中心市街地プロムナード化検討会議
- (2) 日 時 令和5年7月12日(水) 午後2時00分から午後3時15分
- (3) 場 所 サンポート高松 シンボルタワー展示場

2. 出席委員の氏名

中村 英夫 (web)、西成 典久、柏原 亮、北條 裕介、今西 照章、川崎 武文 (代理：高尾 政照)、堀川 満弘、栗原 盾、宮武 一郎、清水 純 (代理：小竹 良)、久保 雅寛、中村 弘孝、中川 昌之、板東 和彦、多田 仁、竹内 正巳、海津 洋

以上、17名

3. 委員就任及び改選

- ・事務局より、人事異動等に伴い、四国旅客鉄道株式会社 事業開発本部 副本部長 北條裕介委員、シンボルタワー開発株式会社 専務取締役 栗原盾委員が就任したことを報告した。
- ・事務局より、高松中心市街地プロムナード化検討会議設置要綱第2条第8項に基づき、高松タクシー協会 会長 川崎武文様の委員就任について発議し、承認された。

4. 議事概要

- (1) 第1回検討会議のふりかえり、全体ビジョン、都市空間の再編に関する他都市の事例、G7関連イベント時の調査結果

【香川県旅客船協会 堀川委員】

いろいろとデータをとっているが、アリーナができることによる人流や車の流れ等が今回のプロムナードの合意形成にどの程度配慮されるのか懸念している。今後サンポートのいろいろな発展があると人流、それから車の流れというのは非常に増えると思う。

やはり1万人規模のアリーナやホテル、学校等々、それから2025年には大型旅客船も年に何回か寄港の予定があるということも聞いており、その辺も含めて将来ビジョンに対して、プロムナードをどのような形にするのかということも配慮していただきたい。

【事務局】

G7関連イベント時には、通行止めを行うために警察や高松市等との調整、届出、周知のための予告看板の設置やビラの配布等が必要であった。イベントごとに、主催者にこういった手続きを求めることは、非常に難しいと考えている。通行者にとっても混乱が生じるのではないかとといった面からも今回のプロムナード化を進めていきたいと考えている。一方、今回のイベントでも車で来訪される方は非常に多く、車への過度な依存を抑制する必要もあると考えている。

【四国地方整備局建政部長 宮武委員】

他都市の事例から見て、高松市にアリーナができた、あるいは海沿いに展開されたサンポート地区との関連性など、どのような部分が参考になるのか、もう少し詳しく考察あるいは分析

をしていただけると参考になるのではないかと。

【事務局】

資料P9の事例の中で、松山市駅前広場の事例が特に今回のプロムナード化に近いのではないかと考えている。商店街と駅が大きな車道で分断されているという状況の中で、松山市でこのような取組みが進められているということでご紹介した。

花園町通りと松山ロープウェイ通りは、プロムナード化というよりは、今ある車道を減少させることによって、歩行者、自転車の空間を創出するという事例である。花園町通りでは、商店街主催のマルシェが開催されるなど、にぎわいが創出されているところは一つ参考になると思っている。松山ロープウェイ通りは、地価が大きく上昇したという事例として紹介させていただいた。

【香川大学 西成副委員長】

これらの事例は、全て自家用車利用を抑制する、あるいは、あるエリアについては利用をなくすということを通じて、にぎわいの獲得を狙いにしながら、それを実現させていっている事例だと思う。他都市で進んでいる大きな流れとして、自家用車をいかにして減らしていくかというところで、ウォークブルでにぎわいのあるまちづくりを目指しているといえるのではないかと。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

サンポート高松の場合は、フェリー乗り場があり、平日には上下線で1,000台程度、繁忙期には1,500台以上の車の利用がある。また、一般旅客等でも年間100万人程度の利用がある。

そのような状況で、車と人がクロスするという部分をどう処理していくかが一番懸念しているところである。クレメントホテルの前の交差点は、時間によっては非常に渋滞するし、歩行者の安全性も考えると、歩車分離をどういう形で折り合いをつけるのかということも、この委員会で検討していただきたい。

【事務局】

フェリー関係の利用車両が一定数あることは承知している。社会実験では、高松玉藻北交差点の渋滞長や滞留長、フェリー乗り場から出入りする車の方向別の交通量等を調査し、歩行者との輻輳や安全確保といった面も考慮し、再度、報告させていただきたい。

【日本大学 中村委員長】

G7 関連イベントでのアンケートが459票回収をされているが、イベント時の入り込み人数または来訪者数等のボリューム感が分かれば教えていただきたい。

2点目として、プロムナード化については段階的という話はあるが、アリーナができる頃までに一定の方向性、形を作っていきたいのだろうと思う。一方で、車や人流については、アリーナ完成後、特にイベント時は現状と大きく変わる。おそらく、アリーナ建設に際して周辺交通への影響については、市や警察等と検討されていると思う。

これから行う社会実験は、アリーナができる前の状態での社会実験にならざるを得ないので、量的なチェックが十分に行いきれないため、堀川委員と同じであるが、アリーナ完成後の想定を踏まえて、道路ネットワークが変わることによってどうなのかというチェックを進めていた

だきたい。

【事務局】

まず、1点目のイベント参加者数について、マルシェの主催者による集計では、約1万2000人の来場があったと聞いている。

もう1つアリーナ整備後の想定や予測部分について、今回の取組みは、過度な車への依存を抑制することが1つの目的としてあるが、それでも車で来られる方は一定数おられると思われる。

そういった中で、交通の流れ自体が大きく変わることも考えられるが、想定するのは難しいところもあり、アリーナ建設前から建設後にかけて、常に交通量をチェックしながら、検討を進めていきたいと考えている。

【香川大学 西成副委員長】

資料P6、7の学生サミットについて関わった関係で一言だけ補足させていただきたい。P7の2番の「にぎわいのあるまちなかをつくり、活力のある都市にします」という提言が学生たちで作られたが、これについて斉藤大臣がG7各国とお話をする上で、この項目は唯一日本のオリジナルの問題点であるというようなことをおっしゃられていた。

G7各国は、日本と同様に、30年前、40年前に、中心市街地の衰退を経験し、現状では、他の各国はにぎわいのあるまちなかができている中で、既に他の課題に目を向け始めている。日本においては、特に地方都市において、こういった問題があり、香川、高松、あるいは同様の地方都市でも、日本としても、世界に対して、問題解決をしっかりとっていくということを大臣も力強く発言されていたため、この点だけ補足させていただく。

(2) 社会実験について【検討事項①】、合意形成の進め方について【検討事項②】

【四国旅客鉄道株式会社 北條委員】

資料P20の段階的なプロムナード化について、アリーナ北側道路は段階的になっているが、高松駅の北側道路については、もし車両通行止めとした場合、サンポート西側地区への自動車でのアクセスは、西からもしくは地下道を通って北から迂回することとなり、この辺の生活道路への影響も考えられるし、今後、大学新設もある中で、一遍に実施するのか、もしくは段階的に歩行者の回遊性や周辺の交通状況の変化を見ながら進めていくというパターンも検討されたのか。

【事務局】

資料P20の右図は、県立アリーナで1万人規模のイベントが開催された場合、どこが歩行者の交通量が多いかを示した図である。1番のメインは、中ほどの青丸印で示しているJR高松駅からアリーナに向かう箇所であり、まさにJR高松駅北側でプロムナード化をする箇所と重なっている。

ここは、公共交通機関を利用した場合、一番人流が多くなる箇所であり、それをイベントごとに通行止めを行うとなると、警察や市との調整、届出、周知のための予告に加え、誘導員を設置する必要が生じるので、毎回主催者に求めていくというのは非常に難しいと考えている。

JR 高松駅北側道路については、できればプロムナード化をしていきたいと考えており、段階的にということは考えていない。

一方で、アリーナ北側道路は、JR 高松駅北側道路を通れなくなるということもあり、一旦は迂回する経路を確保する必要性もあると考えている。道路環境が変わっていくことで、道路利用者も最適な経路を模索することから、交通量の変化等を見ながら、プロムナード化の進め方を検討していきたいと考えている。

【高松市都市整備局長 板東委員】

第1回の会議で今回のプロムナード化を進めていくにあたって、大きい問題点が2点あるとお話しさせていただいたが、プロムナード化を進めていくという方向性を反対しているわけではない。市としても、にぎわいや回遊性のあるまちづくりに取り組んでいくという方向で整備はしていかなければいけないし、市長も議会で同様の答弁をしている。ただ、手続き論として、高松駅北線と浜ノ町錦町線の東西方向で1万台の車両が通行しており、高松駅北線の廃止により、交通が遮断されることで、周辺の交差点にどのような影響が生じるかについては、説明責任として当然していただかなければならないというのが一点。

もう1つが住民との合意形成というところ。ご紹介いただいた松山の事例にもあるが、通常は社会実験より、まず地元の方に話をおろすのが先である。地元説明をして、社会実験の実施、整備計画案をとりまとめるというのが一般的な流れだと思っている。

第3回検討会議の「合意形成を含むプロムナード化の進め方」とは、具体的にどういうことをイメージしているのか。3回目で交通量の分析をするという話もあったが、整備計画案は、いつ、どういうふうに示されるのか。

【事務局】

事務局としては、次回の第3回で整備計画というところまでは、なかなかたどり着けないと思っている。この検討会議では、どのように合意形成に向けて進めていくのかということと、事実として今の道路の断面自体が交通処理できる断面であるのかといったことを確認いただいた上で、数字上の話としてプロムナード化できるかできないかといった結論をいただきたいと考えている。その上で、合意形成については、しっかりとやってくださいという注文をいただくという形になろうかと思っている。

高松市さんのご懸念については我々も十分認識しており、地元へおろすタイミングは、非常に気を使うところである。資料P24に示したように、第3回検討会議で、プロムナード化の一定の方向性を検討会議で示していただき、その後速やかに地元説明会を開いて、丁寧に説明させていただきたいと考えている。

【高松市都市整備局長 板東委員】

第3回検討会議の後、方向性等を示して、地元にも丁寧な説明を行った後、第4回検討会議があるという認識でよろしいか。

【事務局】

第4回検討会議という形かどうかは定かではないが、合意形成の状況等の報告はさせていただきたい。

【高松市都市整備局長 板東委員】

第3回検討会議で決定したことを地元におろすということは、この検討会議に一定の責任が出てくる可能性もある。そのあたりの取扱い等について、皆様方には慎重に議論をしていただきたい。

【四国運輸局交通政策部長 久保委員】

プロムナード化で今後社会実験等をしていく中で、自家用車の抑制が1つのキーポイントとしてあがっているかと思うが、公共交通機関の利用促進とあわせて進めていくことで車両の抑制に繋がっていくのではないかと考えているので、公共交通の利用促進もあわせて検討いただきたい。

【事務局】

県でも他部局も含め、そういった点を検討しながら、高松市とも連携し、対応を検討したい。

【香川大学 西成副委員長】

ぜひそのように進めていただきたい。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

アリーナにどの程度の集客があるのかの予想を加味した時に、このようなことができるのかということ懸念している。現状で社会実験を実施し意見を出してしまうと、サンポートが大幅に変わった時に、予想をはるかに上回った車や人が来た時にどうか。

アリーナやホテルができることによって、どれぐらいの人流、物流が増えるのかというのをある程度予想数値も加味した形で検討をし、合意形成をしていく必要があるのではないかと。

【事務局】

今後、検討していきたいと思っている。

【四国地方整備局道路部長 清水委員代理 小竹道路調査官】

資料P23の8月の社会実験時のアリーナ北側の道路について、4車線を2車線にするにあたって、図では車を両端に寄せる形の実験と見受けられる。ただ、「歩行者が横断しやすいよう道路の構造を工夫」との記載もあるので、どういったものをイメージされているのか、お話をいただきたい。

勝手なイメージとして、実験としては両側に寄せるしかないかと思うが、実際に利用する上での歩行者目線と言えば、海側もしくはアリーナ側に寄せる方が車道を横断する距離が短くなると思う。

【事務局】

2車線化することが決定した場合は、今おっしゃられたことも検討していく必要があると考えている。今回の社会実験は、約1週間の規制を行うもので、逆走や車線変更の無理なハンドル操作等も懸念されるため、警察とも協議した上でこのような形としている。

最終的な2車線をどのようにするかにもよるが、横断しやすい道路構造の工夫も考えられるので、検討した上で、最終構造を決定したい。

【日本大学 中村委員長】

第3回検討会議で、ある程度のコンセンサスが得られそうなのは、プロムナード化の方向性や必要性、効果と、現状でのものにはなるが、社会実験を実施した結果の評価は共有できると思う。

将来、アリーナが完成した後、特にイベント時の特異な日の影響等については、予測にならざるをえないが、こういう形で一定の処理が可能である、あるいは追加的な措置を講じて対応するといったことを、しっかりと説明していかないと市民、あるいは地元近隣の方の合意は得られないと思う。

やはり、説明責任を果たし、そして合意を丁寧にとっていくということは、非常に大事なプロセスとなるので、第3回検討会議では無理かもしれないが、それ以降で、しっかりと丁寧に行っていくということを大事にしていきたい。

ぜひ、第3回検討会議でも、堀川委員がご心配された事柄についても、一定の検討結果を示し、ご議論をさせていただき、大きな方向性について、次回の検討会議で、コンセンサスがまとまれば良いと思っている。意見としては、その後の説明責任をしっかりと果たす際には、将来の予測の検討も加えないといけないということをお願いしたいと思っている。

検討事項②について、P24の書き方では、10月の第3回検討会議の後、11月以降でもう段階的に着手と記載があるため、これだけ見ると、検討会議で決定したことをすぐ実施してしまうと誤解される恐れもある。まずは、合意形成のステップを丁寧に行い、その後、着手のように行を変えるなど、丁寧に色々な資料を作っていただければと思う。

【事務局】

しっかりと検討していきたい。

【日本大学 中村委員長】

いろいろご意見をいただいたが、8月の実験、それを受けた第3回検討会議に向けた様々な検討をしっかりと進めていただくという形で、本日提案があった検討事項①、②については、基本的にはこの方向で進めていただくということでよろしいか。

< 異議なし >

ご意見いただいたことをしっかりと踏まえて丁寧に検討準備を進めていただければと思う。

-以上-